

「柏崎の橋」

21 はまつだ おおた 浜忠橋・大田橋

一般県道373号向山西山停車場線（旧町道浜忠鎌田線）が二位殿川に架かる最も海岸よりの橋を浜忠橋という。「浜忠史」には、「浜忠から越後鉄道（現在の越後線）を利用するには極めて不便であったので、大正中期から集落民の要望によって浜忠・鎌田間の道路（堂坂線）開鑿が開始された。しかしまもなく中止、昭和8年になって救農工事として再び続行した。本格的に工事が進められたのは昭和33年の第1期工事からで、以来同36年まで第4期工事で一応完了した…（中略）…町道浜忠・鎌田線といい、最初着手してから40年を経過したが、多年待望の礼拝駅に通ずる至便の道路はこれで一挙に解決された。」とあり、木橋だった浜忠橋も、コンクリート橋に架け替えられた。現在の浜忠橋は平成4年12月に竣工したものである。

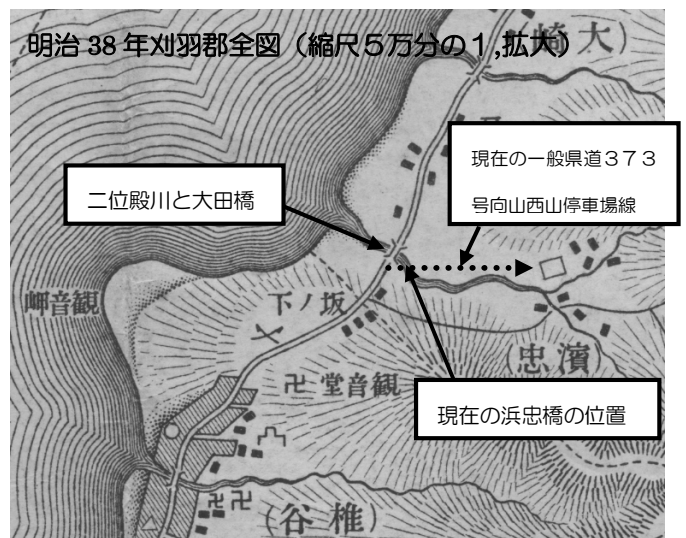


（現在の浜忠橋）

天保4年に作成された古鏡（浜忠村鏡）には、二位殿川に架かる橋が6か所あり、長さが2間半から3間半、幅が6、7尺余りで、二位殿川の河口は9尺2間とある。また、悪水（溜水）や砂が川に付いた時は、その都度切り開く村方普請の記述がある。

「大崎のはなし」には、明治11年の明治天皇北陸御巡幸を機に、海岸線道路（北陸道）が改修された様子が記されている。二位殿橋の架替工事も行われ、8月下旬頃完成したが、御巡幸までは、本橋の浜側の仮架橋で一般の通行が行われた。明治38年の新潟県刈羽郡全図（縮尺5万分の1）に、大田橋の姿を見ることができる。

昭和30年8月に、二位殿橋は永久橋に架け替えられ、大田橋と命名された。現在の大田橋は平成4年3月に竣工したものである。



（現在の大田橋）

●参考資料

- ・「大崎村のあゆみ」西山町教育委員会（224 オオ）
- ・「浜忠史」浜忠史編集委員会（224 オオ）
- ・「西山町誌」西山町誌編纂委員会（224 ニシ）
- ・「古鏡」中村藤八（224 ハマ）